

# 令和3年度 学校評価

加古川市立別府中学校

学校教育目標 「一人一人を大切にし 共に生きる心と力を育てる」

めざす学校像 「みんなの瞳 輝く 学校」

～挨拶・協力・感謝の実践化を通して～

○評価基準  
4:よい  
3:ややよい  
2:やや悪い  
1:悪い

<重点目標>

- ①知・徳・体をバランスよく育て、「自ら生きる力」を育む
- ②基礎的基本的な学力の定着をはかり、主体的に学び、考え表現する力を育てる
- ③生徒の主体的な活動の活性化をはかり、「共に生きる心と力」を育む
- ④いのちを大切にし、人権を尊重する教育を推進する
- ⑤一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行う
- ⑥危機管理意識を高め、安全・安心な学校を創造する
- ⑦教職員としての指導力と資質向上に努め、よりよい組織形成をめざす
- ⑧地域から信頼される教育の環境づくりに取り組む

評価指数とは (4×4の人数)+(3×3の人数)+(2×2の人数)+(1×1の人数)/合計人数

評価指数の平均値は2.5 平均3.5以上で○、2.5未満で△(そのうち2.0未満を▲)として表示

領域	質問項目 (学校の自己評価アンケート)	評価指数					質問項目 (保護者・生徒アンケート)	評価指数					改善の方策	関係者評価	
		R3	R2	R1	H30	H29		R3	R2	R1	H30	H29			
学校生活全般	1 生徒のあいさつ	3.4	3.3	3.5	3.2	3.5	生 地域や学校で進んであいさつができた。	○	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	○学校行事は十分に実施できなかったが2学期では「楽しく充実していた」と答えた生徒は93%いた。「学校環境が適切である」と答えた保護者は85.1%と過去の評価を上回った。  ○十分満足できる学校生活を送れていないが、生徒は周囲の人への感謝の気持ちを持ち生活ができています。また、保護者は生徒が家庭生活においても協力的だと感じている。今後もコロナ禍だからこそ育むことができる心情や精神を育てていきたい。  ○生徒の承認欲求を周りの大人が叶える仕組みづくりをして行く必要がある。このような学校や家庭・地域社会の中で、自己有用感の醸成を目指したい。	○学校の中に入ることは少なくなったが、学校の運営は細かく報告されている。  ○今の生徒の様子を見ていると、よい運営ができているのではないかと感じる。  ○学校に任せるとはならず、地域や家庭が頑張らなければならない。
	2					保 自分から進んであいさつをしている。		3.2	3.2	3.1	3.1	3.1			
	3 生徒の協力性	3.3	3.1	3.3	3.3	3.1	生 係や班活動、行事などで級友と協力して取り組んだ	○	3.6	3.5	3.6	3.4	3.5		
	4						保 家庭の中で協力的		3.1	2.9	2.9	2.9	2.8		
	5 まわりへの感謝						生 周りの人に感謝している	○	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4		
	6						生 学校生活は充実している	○	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4		
	7 学校生活での充実度	3.3	2.7	3.6	3.4	3.4	保 学校生活を充実感・満足感をもっている		3.2	3.2	3.2	3.1	3.1		
	8						保 学校は子どもが学習するのに適した環境である。		3.2	3.1	3.1	3.0	2.9		
学習(学力向上)	9 学習規律	○	3.5	3.6	3.5	3.6	3.4	生 ベルスタはできた		3.3	3.4	3.5	3.3	3.4	○GIGAスクール構想により今年度4月より1人1台のタブレットが支給された。タブレットを利用したり、インターネットにつながった電子黒板を活用したりする授業が増えてきている。  ○「思考力・判断力・表現力の育成はできているか」の問いに対して72.4%の教員がプラス評価となり過去5年間の評価を上回っている。  ○「個に応じた教育的支援」に関して年々評価指数が上昇している。通常学級における個別の支援の在り方を各教員が考え工夫している成果と考えられる。  ○電子黒板やタブレットの活用が十分にされるよう環境整備する必要がある。  ○タブレット導入など、教師は新たなことを学びながら、さらに大変になっていると思うが頑張っている。  ○タブレット活用に関しては、先生の過度な負担にならないように、外部の人材をうまく活用していただきたい。  ○学習や生活において「自ら気づき、思考、判断、行動できる人」を育成していただくことがこれからの社会で大切である。
	10						生 準備物・宿題・提出物		2.5	2.9	2.9	2.9	2.8		
	11 基礎的な知識技能、学力の定着						生 授業はわかりやすかったか		3.1	3.1	3.0	2.9	3.0		
	12														
	13 思考力・判断力・表現力		2.7	2.5	2.6	2.6	2.5								
	14 ことばの力		2.8	2.8	2.7	2.5	2.3								
	15 家庭学習							生 家庭での学習時間は、3時間以上～30分以下		2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	
	16							保 家庭学習の習慣が身についている		2.9	2.6	2.6	2.6	2.6	
17 教師の授業力向上		2.9	2.8	2.8	2.6	2.6									
18 個に応じた教育的支援		3.0	2.9	2.8	2.7	2.7	保 学習の様子や努力を適切に評価している		3.0	3.1	3.1	3.0	2.9		
人権・道徳	19 生徒の道徳性を養う		3.0	2.9	3.0	2.7	2.8	生 思いやりの心をもち、人を大切にしている	○	3.7	3.7	3.7	3.6	*	○みかしお学級については、コロナ禍において実施できなかった。参加生徒数の減少が大きな課題であり、生徒のニーズに応じて、主体性のある人権学習を進めると同時に地域とのつながりを大切にできる活動を模索していきたい。  ○各学年ともに教科として道徳の授業研究を進めている。学年の相互授業見学やローテーション道徳により授業力がついてきていると感じる。電子黒板やタブレットを活用した授業の蓄積と共有が望まれる。  ○3日間のトライやる・ウィークで学校と地域が近くなったと感じた。地域の子もたちと一緒に活動する経験を通して、地域の生徒の健全な成長を肌で感じることができた。  ○心身の教育は、学校で行うだけでなく、家庭と地域が一体となり担うべき役割であると感じる。  ○人権や道徳などは親世代の勉強も大切だと感じる。  ○自分自身や人を大切にするという心の授業は何よりも大切である。
	20						保 思いやりの心をもち、人を大切にしている		3.4	3.4	3.4	3.3	*		
	21 生徒の同和教育への知識理解度		2.7	2.6	2.5	2.5	2.4								
	22 人権・道徳の授業力		2.9	2.7	2.8	2.6	2.5								
	23 計画からの実施状況		3.1	2.8	3.0	2.6	2.7								
24 みかしお学級での活動	△	2.0	1.9	3.1	2.8	2.9									
特別活動	25 行事、生徒会活動	○	3.6	3.2	3.5	3.2	3.2	生 委員、係の活動に積極的に取り組んだ		3.4	3.4	3.5	3.3	3.3	
	26 部活動を通しての成長		3.2	3.2	3.1	3.1	3.2								
生徒指導	27 生徒の服装・頭髪の乱れ	○	3.7	3.5	3.6	3.4	3.2							○「生徒の規範意識の醸成」は97.1%の教師がプラス評価をしており、今後も生徒理解と説諭など共に歩む生徒指導を大切にしたい。  ○希死念慮等に対する教師の対応力を高める必要がある。  ○友人間トラブル等の中に潜む課題を、生徒自らが解決ができる力を育成したい。  ○地域の方からの生徒の親切な行為に対するお礼や賞賛の言葉が多く聞けた。それが目的ではないと思うが、生徒の善行→承認→善行のサイクルの中で住みよいまちづくりにつながると感じる。  ○家庭連絡は迅速に丁寧に大切にしている。「3密」を避けながらも「緊密・綿密・親密」を大切にしていきたい。  ○先生と親との信頼関係が大切である。これからも生徒や保護者とのよい関係づくりに努めてほしい。  ○人とのつながりを大切にしているため今後も学校と地域とのつながりもさらに強めていきたい。  ○学校として困っていることがあれば、学校運営委員会としても学校と一緒に考えて子どものために、より良い方向に向かうよう、方法を考えていきたい。	
	28 生徒の服装・頭髪以外の生活ルール		3.3	3.2	3.3	3.2	3.1	生 ルールを守って生活した	○	3.7	3.7	3.6	3.6		3.5
	29 生徒指導力の向上		2.9	2.9	2.8	2.6	2.6								
	30 教師間の共通理解や指導の方向性		3.2	3.1	3.2	2.9	3.1								
	31 学年間の連携		3.1	3.0	3.1	2.9	2.9								
家庭・地域との連携	32						保 現状や取り組みを、便りやホームページなどでわかりやすく伝えている。		3.2	3.2	3.1	3.1	3.1		
	33						保 学校をよく知ってもらうために、参観できる機会を適切に設けている。		2.9	2.6	3.2	3.2	3.0		
	34 PTA、地域、ユニットなどの取り組み		3.1	2.7	3.3	3.1	3.2	保 学校行事にできるだけ参加している	○	3.5	3.2	3.3	3.3	3.2	
	35							保 子どものことについて、気軽に相談することができる。		3.0	3.0	3.0	2.8	2.7	
	36							保 地域や保護者の意見に丁寧に反応している		3.1	3.2	3.2	3.0	2.7	
学校運営	37 学校目標の明確さ		3.3	3.0	3.1	3.1	3.1								
	38 学校としての組織的な活動		3.3	3.1	3.1	2.9	3.0								
	39 勤務時間の適正化・業務改善		2.9	2.5	2.5	2.4	2.3								
	40 設備施設の改善		2.9	2.8	3.1	2.6	2.6								
	41 報告連絡相談などの連携体制		3.2	3.1	3.1	3.0	3.1								
	42 危機管理対応		3.1	2.7	2.9	2.8	2.9								
	43 研修の充実度		3.1	2.9	3.1	2.8	2.9								